

FPのコンサルティング機能は フィンテックに置き換えられても 伴走者としての機能は残ります

株式会社キャピタル・アセット・プランニングの
代表取締役である北山雅一氏は、
日本のFP草創期から保険・金融業務支援システムの開発に携わり
2016年10月7日、JASDAQスタンダードへの上場を果たした。
北山氏にこれまでの歩みとFPの在り方についてお話を伺った。

米国FP視察で手に入れた
1冊の本がすべての始まり

——キャピタル・アセット・プランニングは2016年10月7日、東京証券取引所ジャスダックスタンダードに株式を公開されました。これまでの歩みをお聞かせください。

北山 私は大学卒業後の1979年に公認会計士として監査法人中央会計事務所に入所しました。6年間務めた後、大阪に戻り中谷公認会計事務所へ転職し、そこで中期事業計画を作るシステムや金融機関向けの融資支援システムの開発などを担当していました。

その後、現在の日本FP協会の前身であるダイヤモンド・フアイナンシャルプランナーズが主催する米国FP視察に参加しました。視察のスケジュールの中にはIAFP（現FPA）の世界大会の出席が組み込まれており、1986年はシカゴで、

1987年はニューヨークで開催されました。

このときにマンハッタンの書店で、ファイナンスを実務にどう活かしていくのかについて、表計算ソフトを用いて解説されている『Financial Modeling』という本を買ったのが、すべての始まりです。日本に帰ってから、この本をもとに『金融マンのためのロータス1-2-3活用法』（日本経済新聞社刊）という本をまとめました。

その後、創刊間もない月刊『フアイナンシャル・アドバイザー』誌で「FPのためのコンピュータ入門」という連載を始めます。この連載は44回続きました。今から30年も前のことですが、このときの連載の執筆が「ロータスという表計算ソフトさえあれば何でもできる」という自信につながりました。後に様々なシステムを開発しますが、原点はこの連載執筆にあったことは間違いありません。

北山雅一

株式会社キャピタル・アセット・プランニング代表取締役